



Photos by Sakumi Hagiwara

萩原朔美の前橋10年

前橋文学館 3階オープンギャラリー

〒371-0022 群馬県前橋市千代田町三丁目 12-10

開館時間 | 9時～17時 (入館は30分前まで)

休館日 | 水曜日、9月24日(木)、年末年始(12月29日～1月3日)※9月23日(水)は祝日の為、開館します。

会場 | 前橋文学館 3階オープンギャラリー 観覧料 | 無料

Resonant Images: Sakumi Hagiwara's Ten Years in Maebashi

Maebashi City Museum of Literature

3-12-10 Chiyoda-machi, Maebashi, Gunma

Hours: 9:00 AM - 5:00 PM (admission until 4:30 PM)

Closed: Wed. (excluding Sept. 24 (Wed.), Sept. 24 (Thu.), Year-end/New Year holidays (Dec. 29 - Jan. 3))

Venue: Maebashi City Museum of Literature, Special Exhibition Gallery, 3rd Floor. Admission: Free

2026.5.30|Sat. |—2027.1.24|Sun. |

後期展 9.19|Sat. |—2027.1.24 |Sun. |



展覧会案内サイト

TALK EVENT

●対談 萩原朔美×飯塚花笑(映画監督)

10月3日(土) 14時～(開場13時30分) 参加費700円、要予約 会場: 3Fホール



飯塚花笑(いづか かしょう)

1990年前橋生まれ。トランスジェンダーである自身の経験を背景に、マイノリティの視点から作品を制作。「僕らの未来」で2011年PFF審査員特別賞受賞。「ブルーボーイ事件」(2025年)がアジア・ポップアップ・シネマ2026でグランプリ受賞。まえばしPR大使として、前橋を中心に活動。



萩原朔美(はぎわら さくみ)

1946年東京生まれ。映像作家。多摩美術大学名誉教授。母は小説家萩原葉子、母方の祖父は萩原朔太郎。寺山修司主宰の演劇実験室・天井桟敷の立ち上げに参加、俳優・演出家として活躍。著書に『死んだら何を書いてもいいわ』『劇的な人生こそ真実』他多数。2016年より前橋文学館館長。2021年世田谷美術館に版画、写真、本のオブジェなど、ほぼ全ての作品が収蔵。2024年より前橋文学館特別館長。2025年より金沢美術工芸大学客員名誉教授。

●対談 萩原朔美×手塚眞(ヴィジュアルリスト/映画監督)

10月24日(土) 14時～(開場13時30分) 参加費700円、要予約 会場: 3Fホール



手塚眞(てづか まこと)

1961年東京生まれ。学生時代から映画・テレビ等の監督を始め、数々のコンクールで受賞。映像以外にもイベント演出、ソフト開発、本の執筆等、創作活動を行っている。また、手塚治虫遺族としても活動している。

各イベントの申込み先 (定員100名・先着順)

TEL.027-235-8011

(水曜休館)

当日は参加費として、全館ご覧いただける企画展観覧券(700円)をご購入ください。

詳しくはHPにてご確認ください。

<https://www.maebashibungakukan.jp/>



萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち

前橋文学館

音楽する写真

萩原朔美の前橋10年

2026.5.30|Sat.—2027.1.24|Sun.
会場 前橋文学館 3階オーファンギャラリー 観覧料 無料

後期展 9.19|Sat.—2027.1.24|Sun.



Photos by Sakumi Hagiwara

Resonant Images Sakumi Hagiwara's Ten Years in Maebashi

萩原朔美(1946年、東京都生まれ)は、1967年、天井桟敷へ入団し、俳優・演出家として活躍。以降、映像・写真・編集・執筆をはじめ、様々な領域で創作を続けてきました。「定点観測」に代表される実験的な映像や写真の表現は、日常の記憶の断片や特異性を示唆するなど、「時間を捉えて可視化する」ことに一貫したテーマがみられます。近年は世田谷美術館や大阪中之島美術館、ロサンゼルス カウンティ美術館(米国)への作品収蔵や、M+ (香港)での展示などが相次ぎ、作品が再評価されました。

本展では萩原が前橋文学館館長(現在:特別館長)に就任以来、前橋で撮影した10年間の写真を中心に展示します。街中で翻るフラッグや道路標識、街路樹、トイレに居る萩原自身などモチーフはさまざまです。

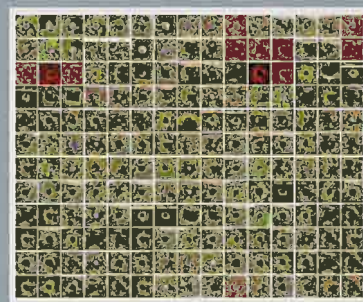
「スマホ散歩」というスタイルで撮影する萩原は、その時の心境を「同じリズムだがメロディが変化する。まるで音楽を奏でる感覚だ」と語り、見慣れた風景に潜む変化や発見を新鮮なまなざしで見つめ続け、独自の表現へと昇華させています。

スマホに溜められた写真はいわば日常を刻む時間と記憶の集積といえますが、それらがモザイク化したフォト・モンタージュとして再構成されると、躍動感ある視覚的な効果が齎されます。

会場では、これらの写真作品と映像作品に加え、詩人 吉増剛造との映像書簡(2023年)やアートブックシリーズ(1971年〜)、前橋市の「めぶく」新聞に連載中のフォトエッセイ「萩原朔美の前橋航海日誌」(後期のみ展示)などを紹介します。

色彩とリズムを放つ作品の数々は、観る者それぞれが持つ概念を揺さぶり、意外な感覚と思考を誘うことでしょう。会場に流れるピアノ曲(山屋寿徳 作曲・演奏)と共に鑑賞ください。

※会期中、一部展示替えます。



「前橋。マンションのガーデンライト」 萩原朔美



「トイレに座る私一部分」 萩原朔美



展示案内サイト



萩原朔美 HP

◎アクセス◎

電 車: JR前橋駅北口から徒歩約15分/タクシーで約10分

上毛電鉄中央前橋駅から徒歩約5分

バ ス: JR前橋駅北口バスのりば

・3番のりばから「中央前橋駅」行き(シャトルバス)

「中央前橋駅」下車 徒歩約5分

・6番のりばから「荻窪公園・森公園」行き

「城東町二丁目バス停」下車 徒歩約5分

自動車: 関越自動車道 前橋ICから車で約15分

※広瀬川サンフーキング(市営P城東)のご利用に際しては、駐車券に割引処理をいたします。

同 時 開 催 ※予定は変更になる場合があります。

前橋文学館

萩原朔太郎誕生140年記念展「ふらふらふらぬ〜 朔太郎の危険な散歩」

6月13日(土)〜9月6日(日)

「この弱気な両手であなたに触れる 第33回萩原朔太郎賞受賞者 大崎清夏展」

9月19日(土)〜2027年1月24日(日)

アーツ前橋

「ぬけみち展 かわず・つくる・ともにいる一生生きるための回路」

7月4日(土)〜8月30日(日)

「めぶく。Where good things grow. 前橋国際芸術祭2026」

9月19日(土)〜12月20日(日)



萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち
前橋文学館

〒371-0022 群馬県前橋市千代田町三丁目 12-10
TEL:027-235-8011 FAX:027-235-8512
<https://www.maebashibungakukan.jp>